わたしたちの郷土

湯川村

勝常寺薬師堂

湯川村教育委員会

米と文化の里「湯川村」

湯川村のマーク

村民憲章

一 郷土を愛し、心豊かな村を
つくりましょう

一 自然と文化に親しみ、
美しい村をつくりましょう

一 互いに助け合い、
心のかよう村をつくりましょう

一 決まりを守り信じ合い、
住みよい村をつくりましょう

一 健康で仕事に励み、
明るい村をつくりましょう

村の花…アジサイ

村の木…イチョウ

村の鳥…カッコウ

もくじ

Ⅰ わたしたちの湯川村 ……2
1.湯川村のようす ……2
⑴わたしたちの住んでいるところ …3
⑵湯川村をながめて ……5
⑶土地のようす ……5
⑷村の人びとの仕事 ……13

Ⅱ 湯川村の人びとのくらしと仕事……14
1.人びとのくらしと田畑の仕事……14
⑴湯川村の農業のようす ……14
⑵米づくり ……21
⑶畑の仕事 ……24
⑷牛・会津地鶏の飼育……26
⑸花づくり ……27
⑹ＪＡの働き ……28
⑺これからの村の農業 ……30

2.人びとのくらしと商店のはたらき …31
⑴いろいろな店 ……31
⑵国内やほかの地域や外国とのつながり…35

3.人びとのくらしと工場の仕事……37
⑴村の工場の仕事 ……37
⑵村にある大きな工場の仕事 ……37

Ⅲ 住みよい生活 ……43
1.あんぜんな生活 ……43
⑴火事をふせぐ ……43
⑵交通事故をふせぐ ……52
⑶大水や雪の害をふせぐ ……55
⑷災害にそなえる ……59

2.健康な生活 ……60
⑴ごみのしまつ ……60
⑵水道のしせつ ……64
⑶下水のしせつ ……68
⑷電気とガス ……71

3.ゆたかな生活 ……73
⑴村の公共施設 ……73
⑵公民館と人々のくらし ……75

Ⅳ かわってきた湯川村 ……79
⑴学校のうつりかわり ……79
⑵村のうつりかわり ……83
⑶道路と交通のうつりかわり ……86
⑷村に残る古いもの ……89

Ⅴ 輝かしい先人たち ……100

Ⅵ これからの湯川村 ……101
⑴これからの湯川村 ……101
⑵わたしたちの心がまえ ……102

年　表 ……103
この本を利用される先生方へ ……107
編集にたずさわった人びと ……108

Ⅰ　わたしたちの湯川村

1.湯川村のようす

わたしたちのふるさと湯川村は、会津盆地のほぼまん中にあります。

北は日橋川をさかいに喜多方市と接しており、西は阿賀川をはさんで河沼郡会津坂下町と、南と東は会津若松市と接しています。

気候は、夏と冬の気温の差が大きく、夏は盆地とくゆうのむし暑い日が続き、冬は季節風が吹き込み大雪を降らせることもあります。

春になると田んぼに水が入り田植えが始まり、あたり一面、緑につつまれます。夏には稲穂が出て、秋には実が入り黄金色になります。収穫の時期は、田んぼにはいなごも多くいます。その佃煮はとても人気があります。

わたしたちの湯川村は、地理的にも自然環境的にもとても恵まれた村です。村の様子を、もう少しくわしく見てみましょう。

⑴ わたしたちの住んでいるところ

湯　川　村

わたしたちが住んでいる湯川村は、美しい自然に囲まれた田園地帯にあります。古くから勝常寺のような仏教文化が栄え、人々のくらしも豊かな大地の恵を受けて地域の産業として稲作を中心とした農業が発達してきました。

わたしたちの村は、村の中央を流れる湯川をさかいにして、笈川村と勝常村に分かれていました。

しかし、1957年(昭和32年)に合併して、新しく「湯川村」として生まれかわりました。

○村の人口・世帯数のうつりかわり

区分 / 年度	人　口(人)	男(人)	女(人)	世帯数(戸)
昭和35年	5,220	2,439	2,781	861
昭和45年	4,207	2,005	2,202	828
昭和55年	3,789	1,799	1,990	815
平成 2 年	3,683	1,753	1,930	823
平成12年	3,601	1,690	1,911	875
平成22年	3,364	1,580	1,784	915
平成27年	3,206	1,516	1,690	906

(10月1日：国勢調査)

○人口調べ

	(人)	(人)	(人)	(戸)
平成28年	3,348	1,614	1,734	1,015
平成29年	3,334	1,603	1,731	1,021
平成30年	3,262	1,561	1,701	1,017

(10月1日：村役場調べ)

川・鉄道・道路

湯川村は、北に飯豊連峰、東に磐梯山、南に南会津の連峰を望むことのできるけしきに恵まれた会津盆地の中央に位置し、豊かな緑にかこまれた自然環境と古い歴史のある村です。

村を流れる湯川とせせなぎ川は、途中で合流し、会津盆地の水を集め日橋川へと流れます。さらに阿賀川に合流し遠く日本海へとそそいでいます。

村内を通る主な道路として会津縦貫北道路が村の東側を南北に、そして、国道49号線が村の南西はしを通っています。さらに、国道と結ぶように主要地方道2路線、一般県道4路線が村内を東西南北に通り、周辺市町村とつながっています。

公共交通機関は、JR磐越西線が走っており、村内に無人駅「笈川駅」が設置されています。

また、村内にはバス停が設置され、民間のバスが走っています。

笈川駅

佐野バス停

○村内を通る主な道路

	路　線　名	実延長(m)
国　　道	49号線	1,797
	121号線	1,435
	会津縦貫北道路	4,560
主要地方道	会津坂下・河東線	3,825
	猪苗代・塩川線	175
県　　道	会津坂下・塩川線	849
	熊ノ目・浜崎線	3,392
	浜崎・高野・会津若松線	5,413
	会津若松熱塩温泉自転車道線	2,746

（村役場調べ）

⑵ 湯川村をながめて

村の広さ

湯川村は会津盆地の中央、北緯37度34分、東経139度53分に位置しています。村の広さは、東西約4.2㎞、南北約4.8㎞とほぼ長方形の地形です。面積は16.37㎢あります。標高は170ｍ～180ｍの平坦地です。

⑶ 土地のようす

村の土地利用を見てみると、田が総面積の71.3％をしめて最も多く、次いで畑が5.7％となっており、これらの自然的土地利用だけで、全体の82.5％をしめています。

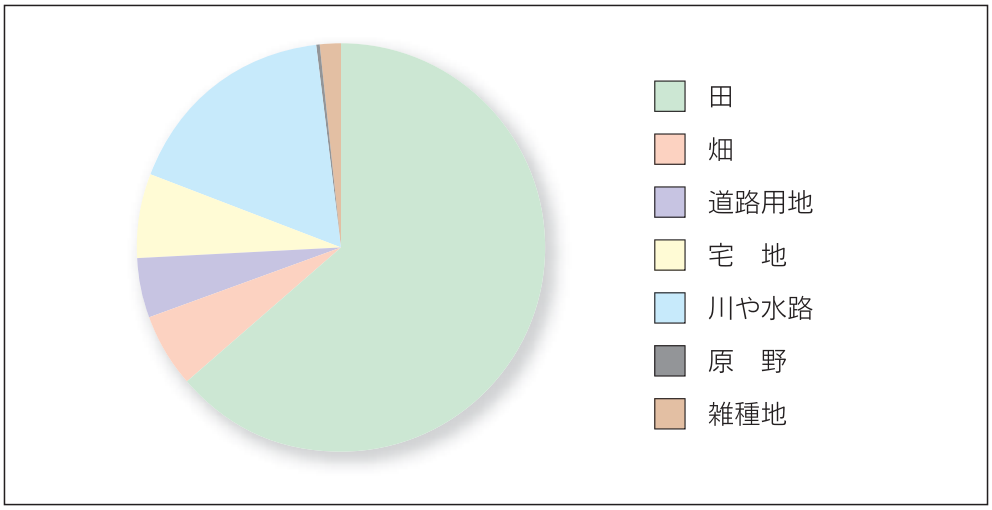
宅地は、村内に小規模な集落として散在しており、そのほとんどが住宅地として利用されています。

○土地利用のようす

（面積：％）

田	畑	道路用地	宅　地	川や水路	原　野	雑 種 地
63.8	5.7	4.8	6.6	17.5	0.1	1.5

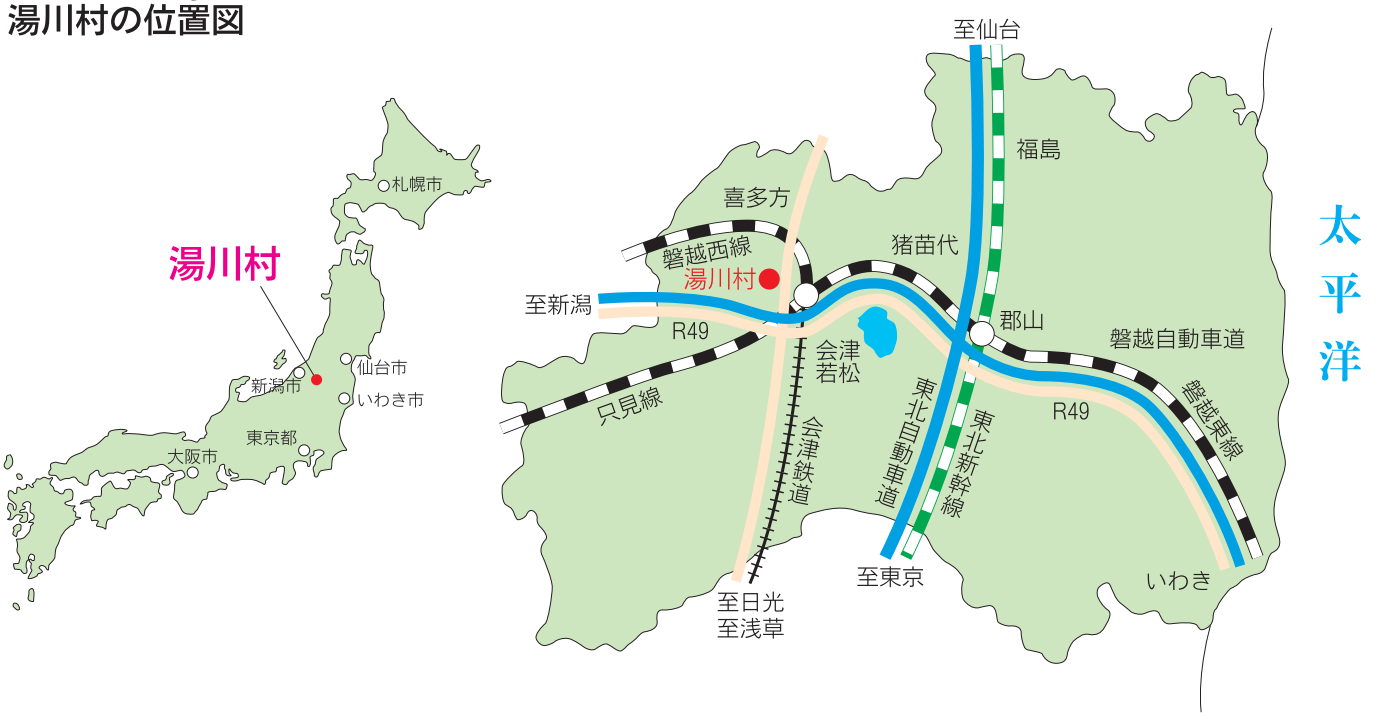
（資料：都市計画基礎調査）



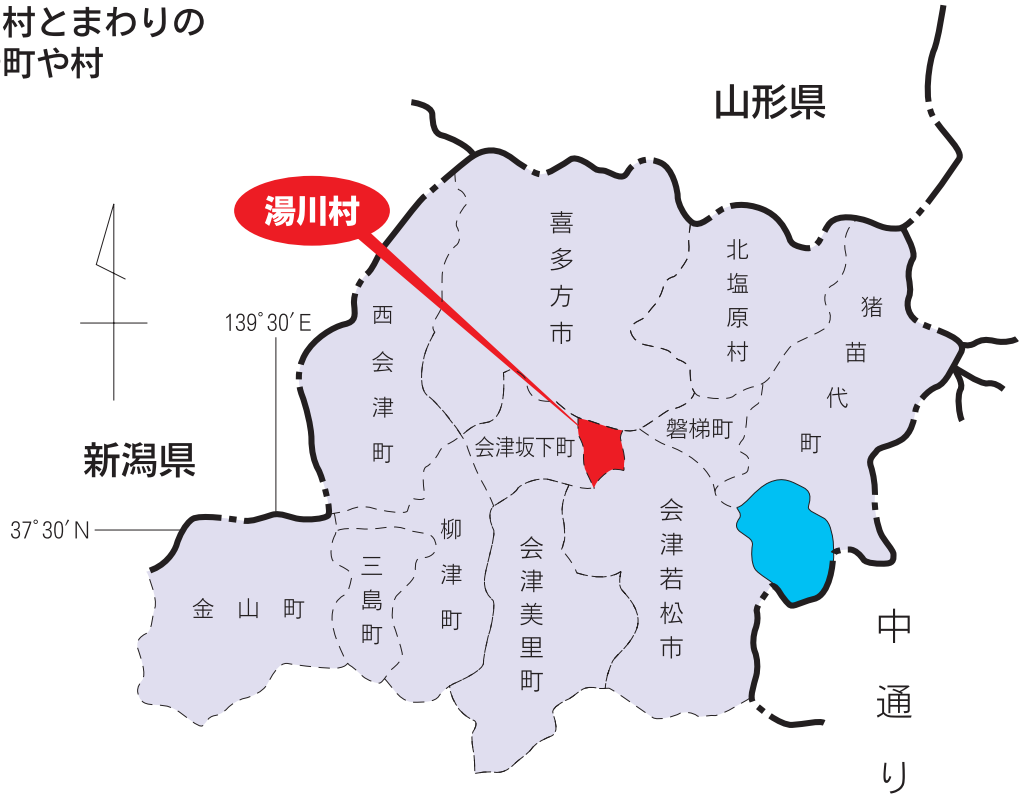
湯川村航空図

○わたしたちの湯川村

湯川村の位置図



湯川村とまわりの市や町や村



この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を使用した。（承認番号　平27情使、第49-GISMAP36255号）

湯川村全図

位置図

湯川村

平成28年10月発行

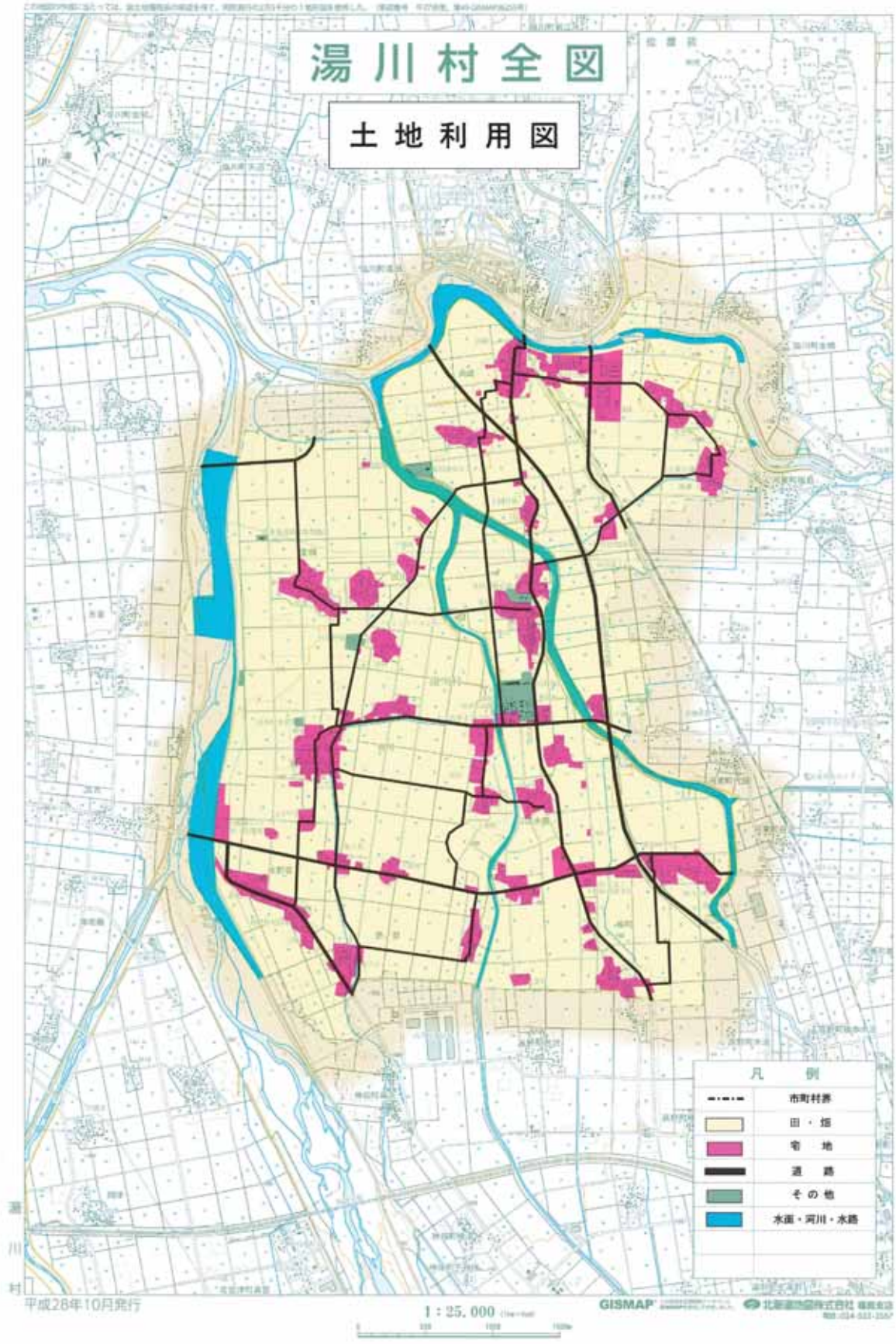
1：25，000（1cm＝4cm）

0　500　1000　1500m

GISMAP

北海道地図株式会社 福島支店
電話：024-522-2557

○湯川村の土地利用


湯川村全図
土地利用図
凡　例
市町村界
田・畑
宅　地
道　路
その他
水面・河川・水路
平成28年10月発行
1：25,000
GISMAP

①作物・果樹・花

湯川村では、米、野菜、くだもの、花などいろいろなものが作られています。この中でも一番多く作られているのは米です。野菜は自家用にするものと、JAに出荷して、現金収入を得ているものがあります。くだものは、むかしから、柿(みしらず柿)・うめ・りんご・ももなどが作られています。

○生産農家

種　類	戸　数	面　積(㎡)
稲	419	9,351,221
大　豆	53	29,951
そ　ば	20	92,652
野　菜	136	173,605
花	7	38,763
飼料作物	2	485
柿	6	5,199
う　め	8	4,354
り　ん　ご	1	1,643
も　も	1	392

○生産出荷状況

品目名	生産地区	収穫量(t)
米	湯川村全域	5,680
き　く	笈川、森台、勝常	2,207(箱)
だいこん	※JA出荷なし	−
じゃがいも	上田谷地	0.35
トマト	湯川村全域	49.50
はくさい	※JA出荷なし	−
きゅうり	湯川村全域	57.80
ね　ぎ	湯川村全域	30.49
り　ん　ご	※JA出荷なし	
柿	※JA出荷なし	
も　も	※JA出荷なし	
う　め	※JA出荷なし	

(平成29年度　村役場調べ)

②畜　　産

村には、「会津牛」として売られる肉用牛が飼われています。また、会津地どりも飼育し出荷されています。

会津牛

③工　　場

浜崎地区には、湯川村工業団地があり、工場がいろいろな品物を作っています。

その作られた品物は、日本の各地や外国に運ばれて売られています。

工業団地

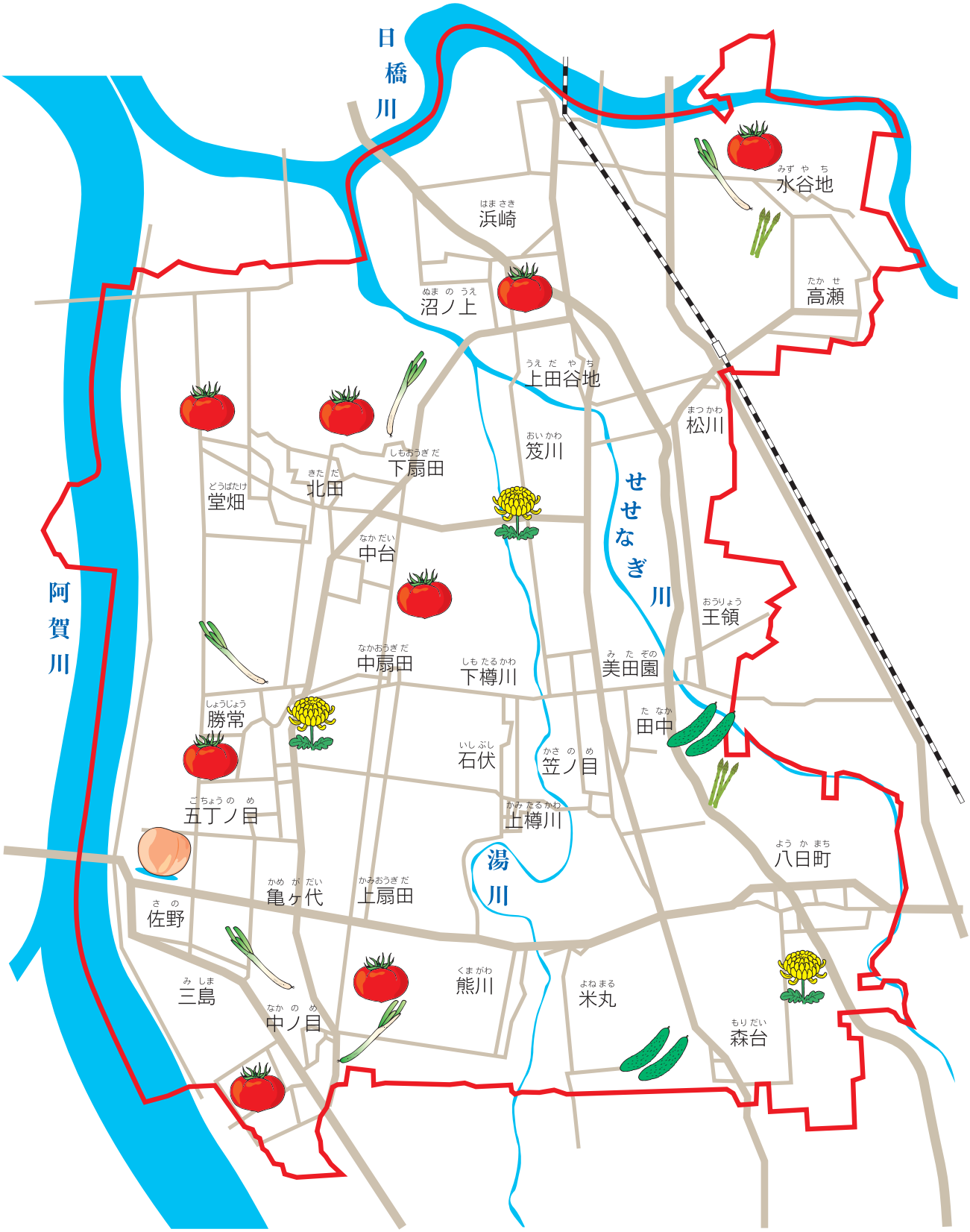
④商　　店

国道49号ぞいには、コンビニエンスストアやガソリンスタンドなどがあります。村内には商店街はありませんが、古くから地域に密着した商店があります。家庭で必要な食料品をはじめ、日用品などたいていの品物がおかれていて、地元とのつながりは大変深くなっています。

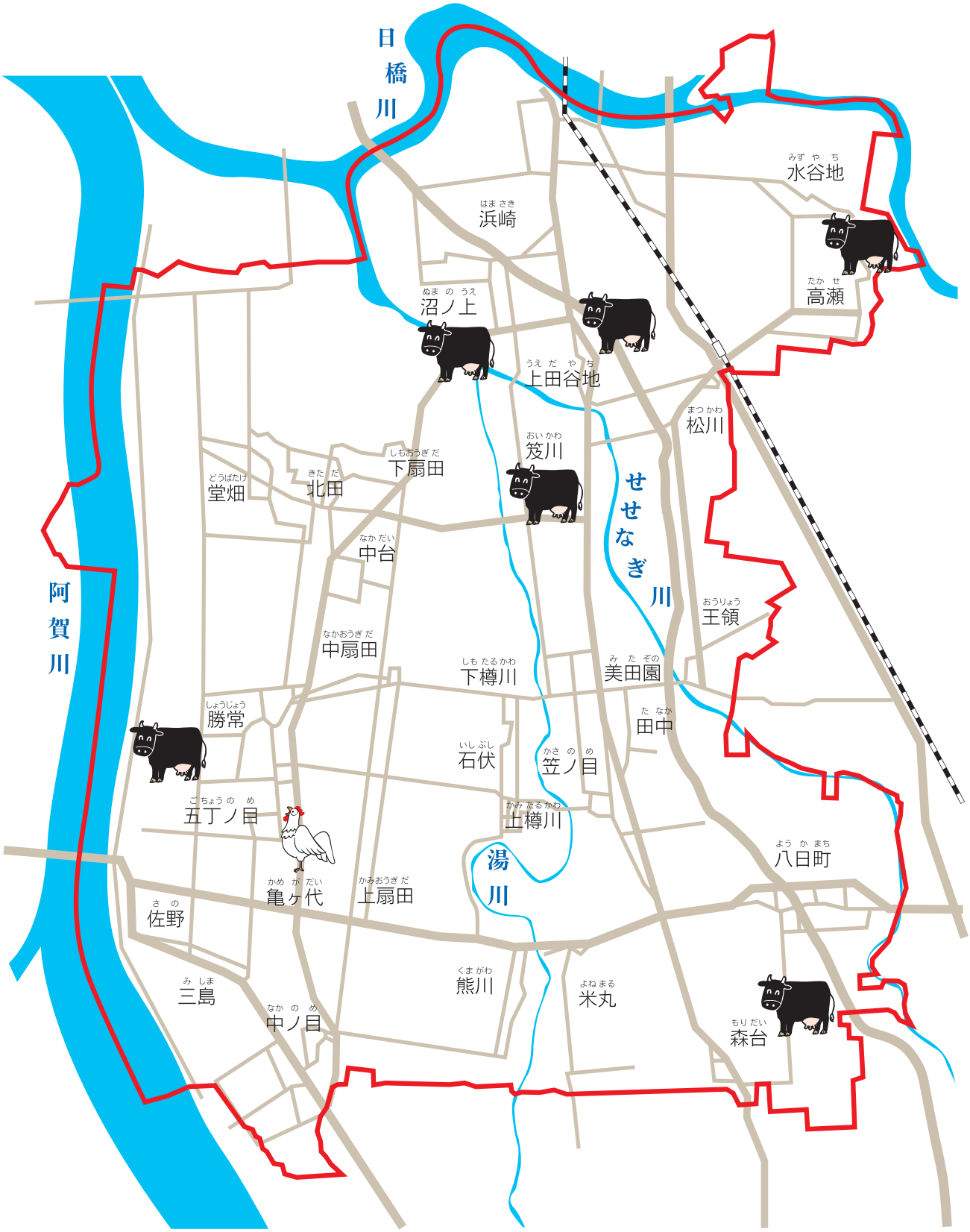
住宅は、下樽川に住宅が建設予定されています。土地の利用も年とともにかわってきています。

整備された美田園

○主な野菜やくだものがとれるところ



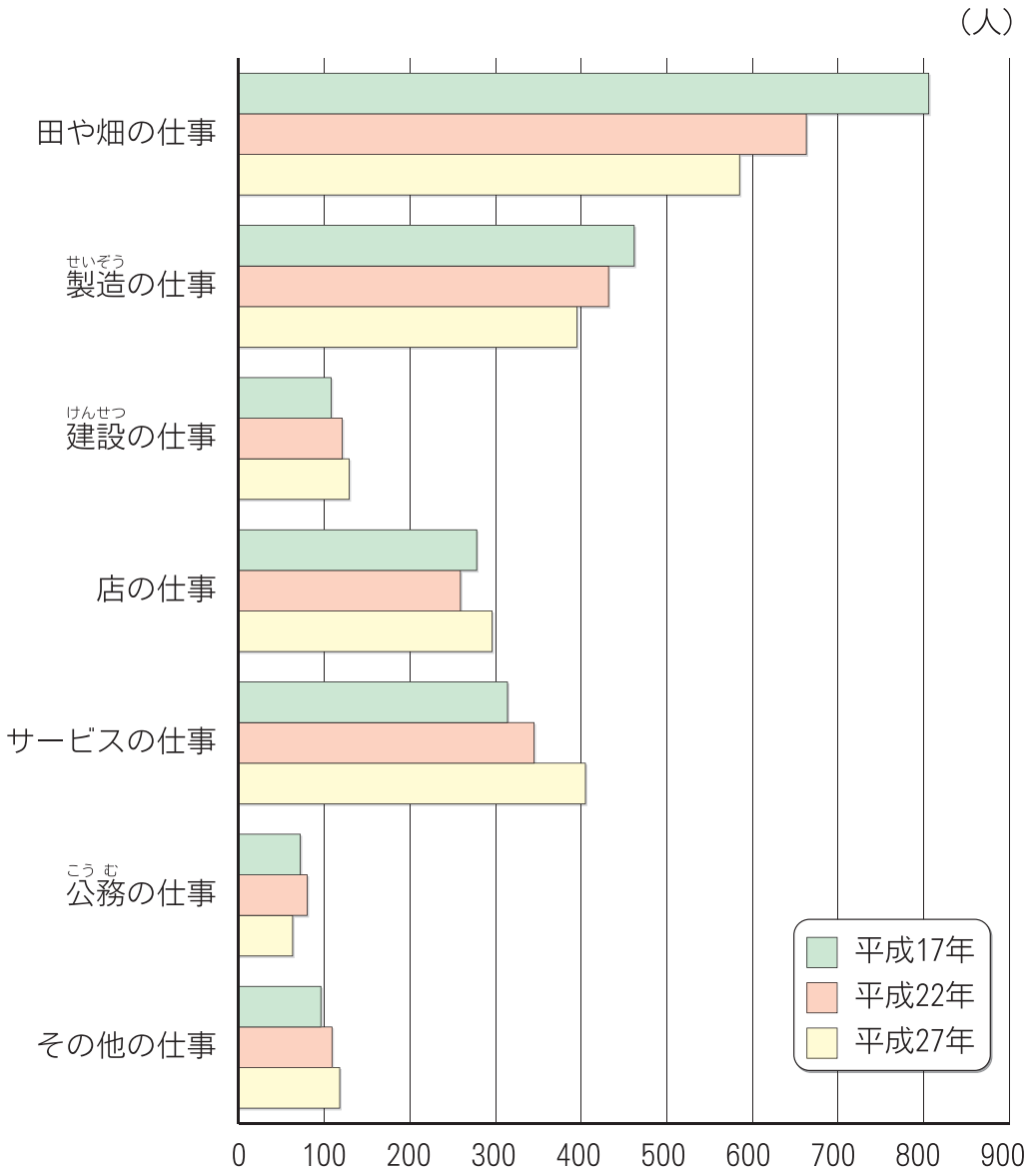
○家畜を飼っているところ



⑷ 村の人びとの仕事

村の人びとの仕事はどのようにかわってきているのでしょうか。

○湯川村の仕事しらべ



Ⅱ 湯川村の人びとのくらしと仕事

1.人びとのくらしと田畑の仕事

(1) 湯川村の農業のようす

湯川村の約7割が農家ですから、田畑の仕事をさかんにすることはとても大切なことです。稲作を中心として、いろいろな野菜やくだものが作られています。これは、湯川村の土地が肥えているのと、自然条件にたいへん恵まれているからです。また、牛やにわとりを飼育したり、花を栽培したりしている農家もあります。

しかし、年々、田畑のしごと(第一次産業)をする人々の割合が減ってきています。工事現場の仕事や物を作るしごと(第二次産業)をする人や、商店や役場のしごと(第三次産業)をする人の割合が多くなっています。この原因は、機械化が進み、田畑のしごとに手間がかからなくなったこと、農業だけでは生活しにくくなったことがあげられます。

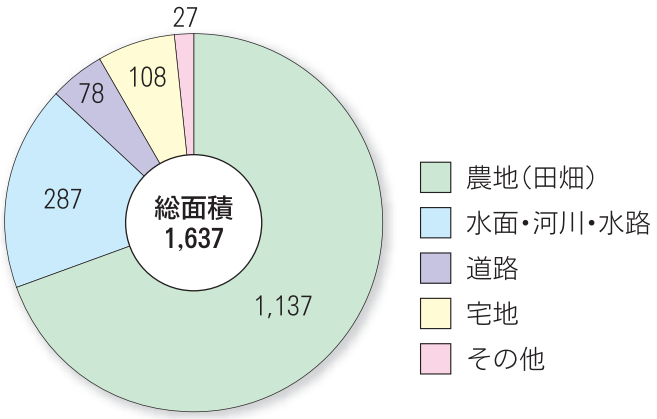
それでも福島県全体から比べると田畑の仕事をしている人の割合が多く湯川村は農業を中心とする村ということが分かります。

湯川村の土地

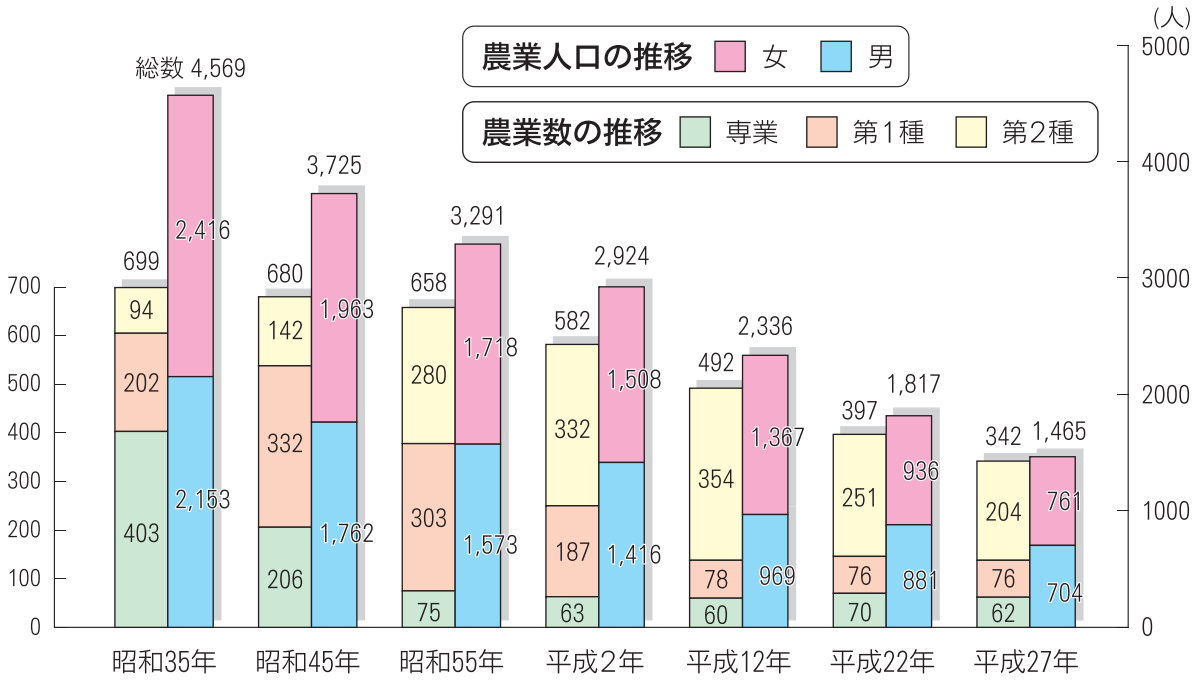
○位置と面積

役場所在地	湯川村大字清水田字長瀞18番地
面積	16.37㎢
東西	4.2km
南北	4.8km
東経	139度53分
北緯	37度34分

○地目別面積 (単位：ha)



○農業数と農業人口の推移（農林業センサスより）



農家の種類

農業の仕事をしている人たちを、農家と言います。この農家の人たちにも、下の表のような、種類があります。

専業農家	家の人みんなが、一年中農業だけの仕事をしている農家です。
兼業農家	家の人だれかが、一年の中で、農業以外のちがう仕事をしている農家です。兼業農家は、下の二つに分けることができます。 **第1種兼業農家**……一年のうち、家の中で、農業でかせいだお金が、ほかの仕事でかせいだお金より多い農家。 **第2種兼業農家**……一年のうち、家の中で、農業でかせいだお金が、ほかの仕事でかせいだお金より少ない農家。

自分の家はどの農家でしょうか。お家の人と話してみましょう。

田や畑の農作物のとれ高

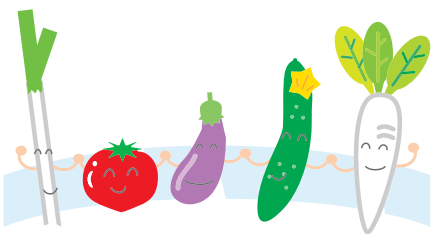
湯川村では、米作りを中心として、いろいろな野菜や花や果物などもつくられています。自分の家で食べるほかに、ＪＡなどに出荷して、米や野菜や花を売っている農家もあります。

では、どんな農作物がどのくらいとれるのでしょうか。

○米・野菜などの生産出荷状況（平成29年度）

品目名	生産地区	作付面積（ha）	収穫量（t）
米	湯川村全域	935.12	5,680
きく	笈川・森台 勝常	0.92	2,207（箱）
大根	※JA出荷なし		－
じゃがいも	上田谷地	0.30	0.35
トマト	湯川村全域	2.05	49.50
白菜	※JA出荷なし		－
きゅうり	湯川村全域	0.71	57.80
ねぎ	湯川村全域	2.00	30.49
キャベツ	※JA出荷なし		
そば	湯川村全域	11.00	77.00

品目名	生産地区	作付面積（ha）	収穫量（t）
さといも	※JA出荷なし		
アスパラガス	湯川村全域	1.10	9.01
なす	※JA出荷なし		
かぼちゃ	※JA出荷なし		
ストック	※JA出荷なし		
にら	※JA出荷なし		
とうもろこし	※JA出荷なし		
大豆	水谷地・石伏	0.30	0.60
ごぼう	※JA出荷なし		
枝豆	※JA出荷なし		



生まれかわった田

むかしは、田を平らにするのがたいへんむずかしかったので、土地の高さや、川の流れにあわせて田を作りました。そのため田は、大きさがそろわず、土地の高低もあって、仕事のしにくい形のものでした。

村では昭和39年頃から「圃場整備」をして、仕事のしやすい田を作る計画を立てました。　そして、むかしの田んぼは、機械を使って大きな四角形の田に作りかえられました。

今では、村のほとんどの田が、圃場整備を終えました。広々とした四角形の大きな田が並び、用水路やトラックの通れる広い農道も作られ、田の仕事はとてもしやすくなりました。

畑もいっしょに、圃場整備されて、仕事のしやすい畑に生まれかわりました。

圃場整備前

土地改良工事（笈川南部地区）

圃場整備後

農業用機械の普及

耕地や農道の整備がすすむとともに、農業用の機械も大型化してきました。小型の耕耘機から、大型トラクターが増えてきました。

昭和45年頃は、家族はもちろん近所の人や親戚の人を頼んで、手で田植えをしていましたが、今では、そういう風景も見られなくなりました。一度に何条も植えられる田植え機が使われるようになりました。

田植えが機械化してくると、稲刈りも同じように機械化されてきました。それも、稲を刈るだけでなく、刈り取るとすぐ脱こくをしてしまうコンバインが使われるようになりました。

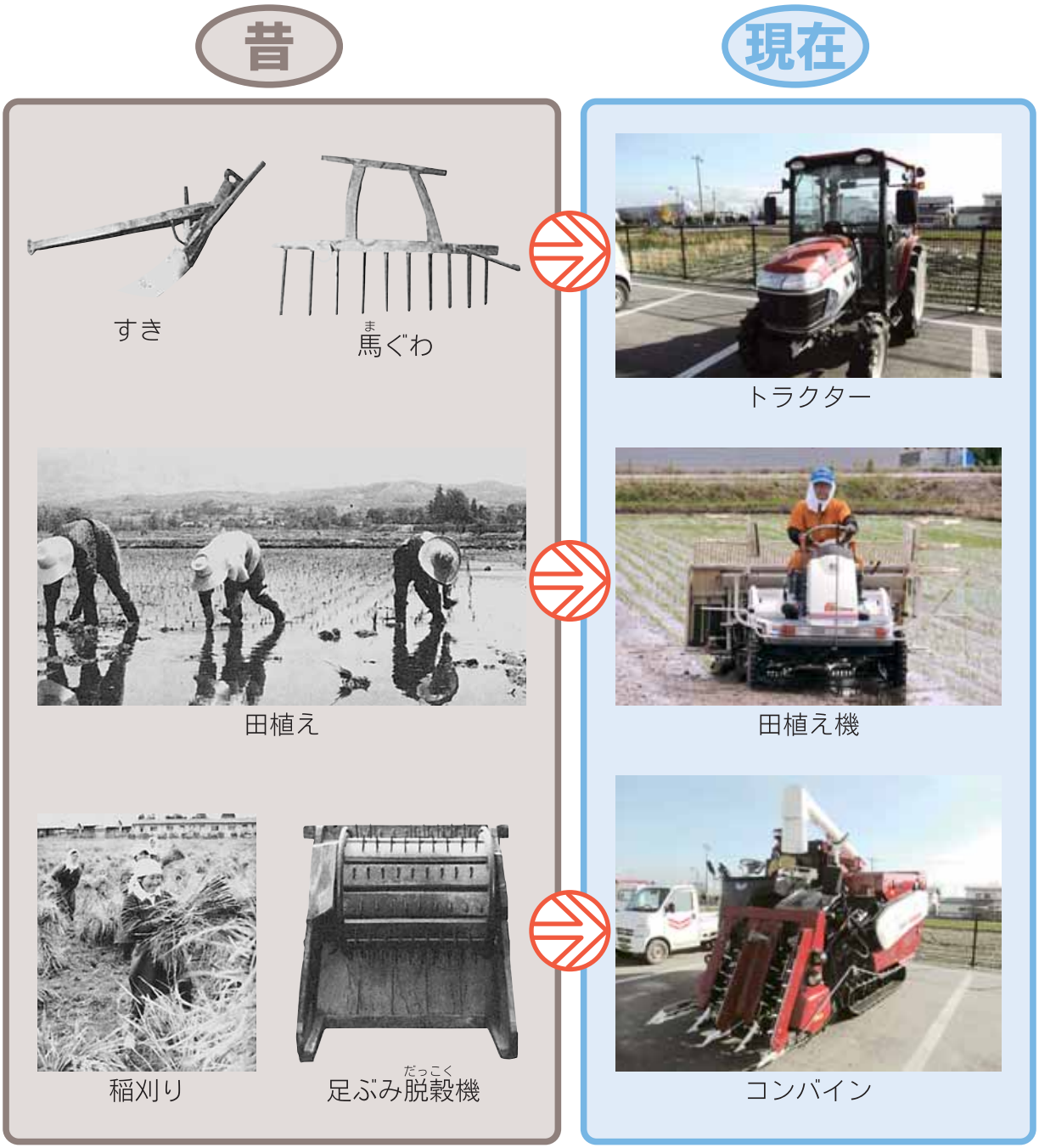
稲の収穫が、稲刈りと脱こくを同時に行うようになるとどうしても、もみの乾燥が必要になります。この頃になって、半数以上の農家が二階建ての家の高さほどもある乾燥機をそなえるようになりました。

平成8年には、笈川地区内にＪＡ湯川村カントリーエレベーターが完成し、一度に3,000トンもの米を、乾燥、貯蔵、精米することができるようになりました。

このように、湯川村ではあまりお金をかけないで、共同の力で新しい時代の、新しい農業がすすめられているのです。

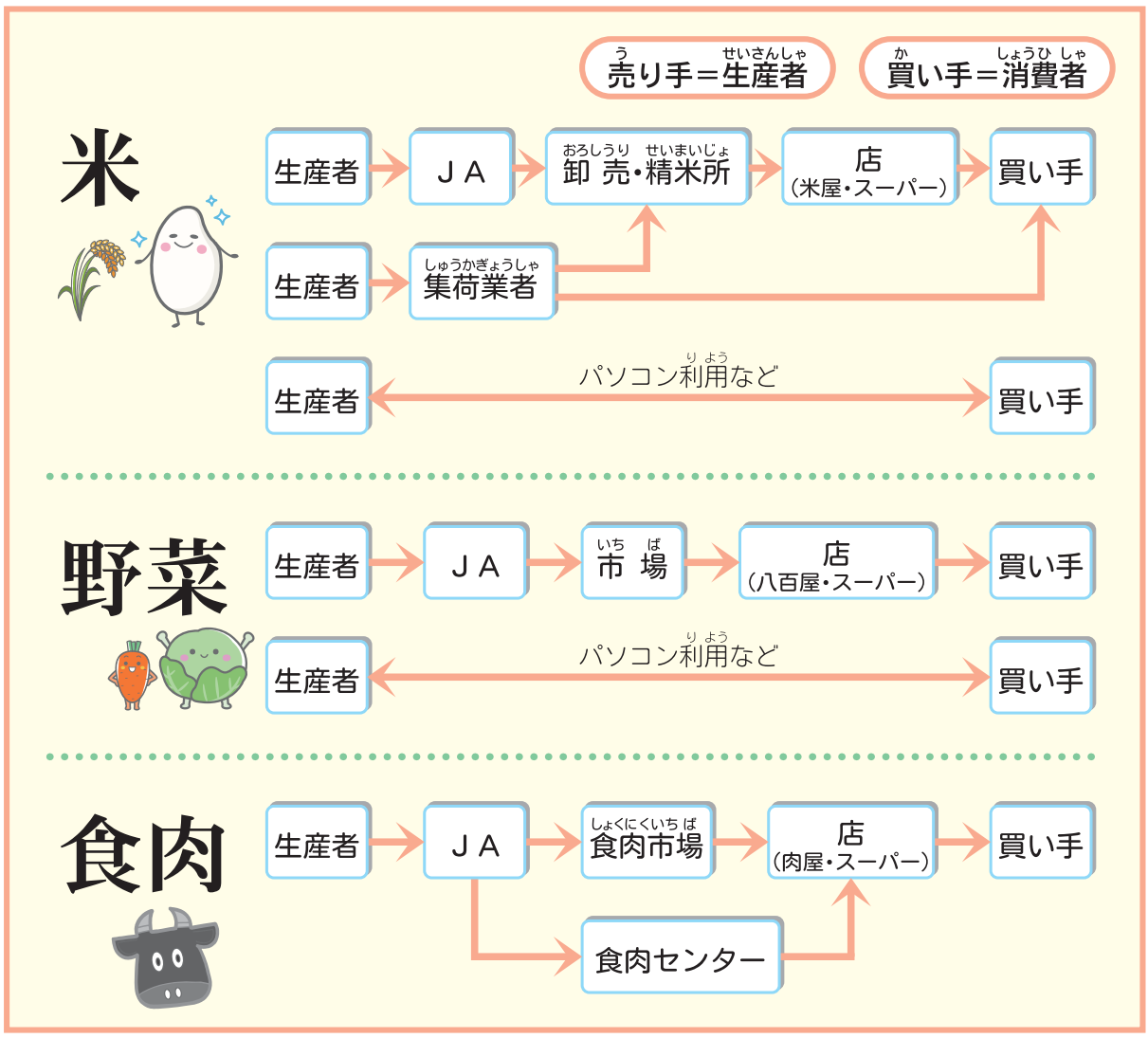
農作業(農機具)の移り変わり

農作業はむかし、手作業が大部分でした。忙しい時期には、近所の人と共同で作業し、お互いに助け合っていました。今では、トラクターや田植え機、稲刈りをするコンバインなどの農業機械が普及し、作業が楽になり、短時間で農作業ができるようになりました。



農作物が買い手にわたるまで

私たちの農家で作られたいろいろな農作物は、どのようにして店に運ばれ、お客さんにわたるのでしょうか。



ＪＡに集められた農作物の箱詰め作業

農作物の出荷作業（県内・関東地方・京浜地方へ）

⑵ 米づくり

村のほとんどの農家は米づくりをしています。米は一年に一度しか収かくできないので農家の人たちは秋にどれぐらいとれるのかが一番気になります。

春になると、肥料をまぜた土と消毒した種もみをまき、決まった温度にして苗を育てます。その間に田に肥料をまいて田おこしをしたり、水を入れて代かきをしたりします。苗の葉が、１ヶ月ほどして10㎝ぐらいに伸びたとき田植えをします。

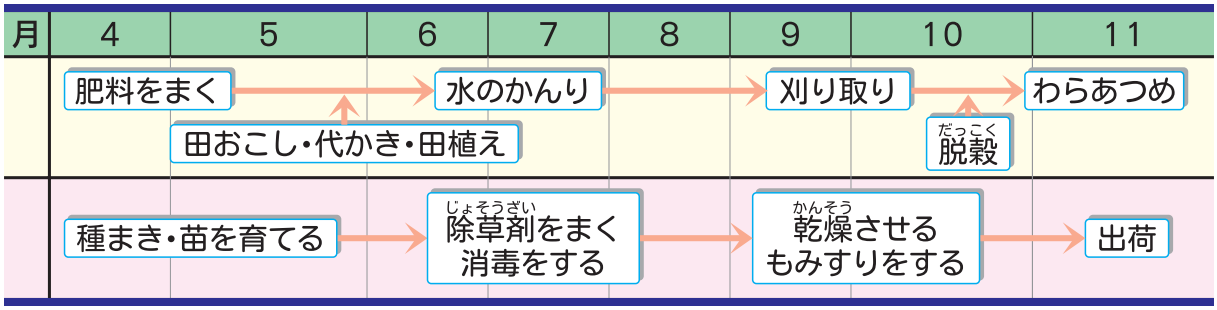
夏には、水が無くならないように田を見て回ったり、雑草を取ったり、雑草が生えないように除草剤をまいたりします。また病気や害虫から根を守るために消毒を1～2回ぐらいします。

秋に稲が実ると、刈り取り、脱穀、乾燥、籾すりをして、ＪＡに出荷します。

米作りは、春から秋にかけて数多くの仕事があります。
しかし、最近は、田おこし、代かき、田植え、刈り取りの仕事を大型の乗用機械を使ってするようになりました。

このように、機械によって楽に仕事ができるようになったのですが、稲が実る時期に日照不足、低温、台風、干ばつなどにより、不作になることもあります。だから、農家の人たちの心配は尽きません。

○米作りの作業ごよみ



○１年間の田のおもな仕事

機械を使って平らに種まきをします。

4月といっても気温が低いのでビニルハウスの中で苗を育てます。

田植えをする前に田おこし・代かきをして田の上を平らにします。

機械を使っての田植えの仕事は手で植えるより早くできます。

刈り取りと脱穀を同時にできるコンバインを使って収穫します。

堰のようす

湯川村は、県内でもおいしいお米が多くとれる米どころです。

これは、稲に必要な水を確保するために、祖先の努力によって堰が作られ、守り続けられてきたためです。

勝常地区では、いくつかの堰により用水を確保しています。その中でも一番古い河沼堰は、中世末期天文5年（1536年）に、阿賀川（大川）より取水しています。その後、会津若松市の高久地内から水を引きました。この堰は、佐野堰といいます。このほかにも小野田堰や弘化堰などがあり、約935ヘクタールの水田をうるおしています。

笈川地区でもいくつかの堰から用水を確保しています。そのうち、戸の口堰※1は元禄6年（1693年）に猪苗代湖から取水する工事が行われました。その後、堰の幅を拡張する工事が3年かかって行われ、のべ5万5千人もの人々が働きました。戊辰戦争※2の時、白虎隊が自刃したことで有名な飯盛山の山腹にある洞門も、この工事によりできたものです。また、天和2年（1682年）に、日橋川から取水する高瀬堰が完成しました。この堰により約250ヘクタールの田に水を引くことができました。

※1 戸の口堰……猪苗代湖西岸の船着き場の近くにある。
※2 戊辰戦争……新政府と旧幕府の戦争。干支の戊（つちのえ）と、辰（たつ）から戦争の名がつけられた。（1868年1月～1869年5月）

河　沼　堰

高　瀬　堰

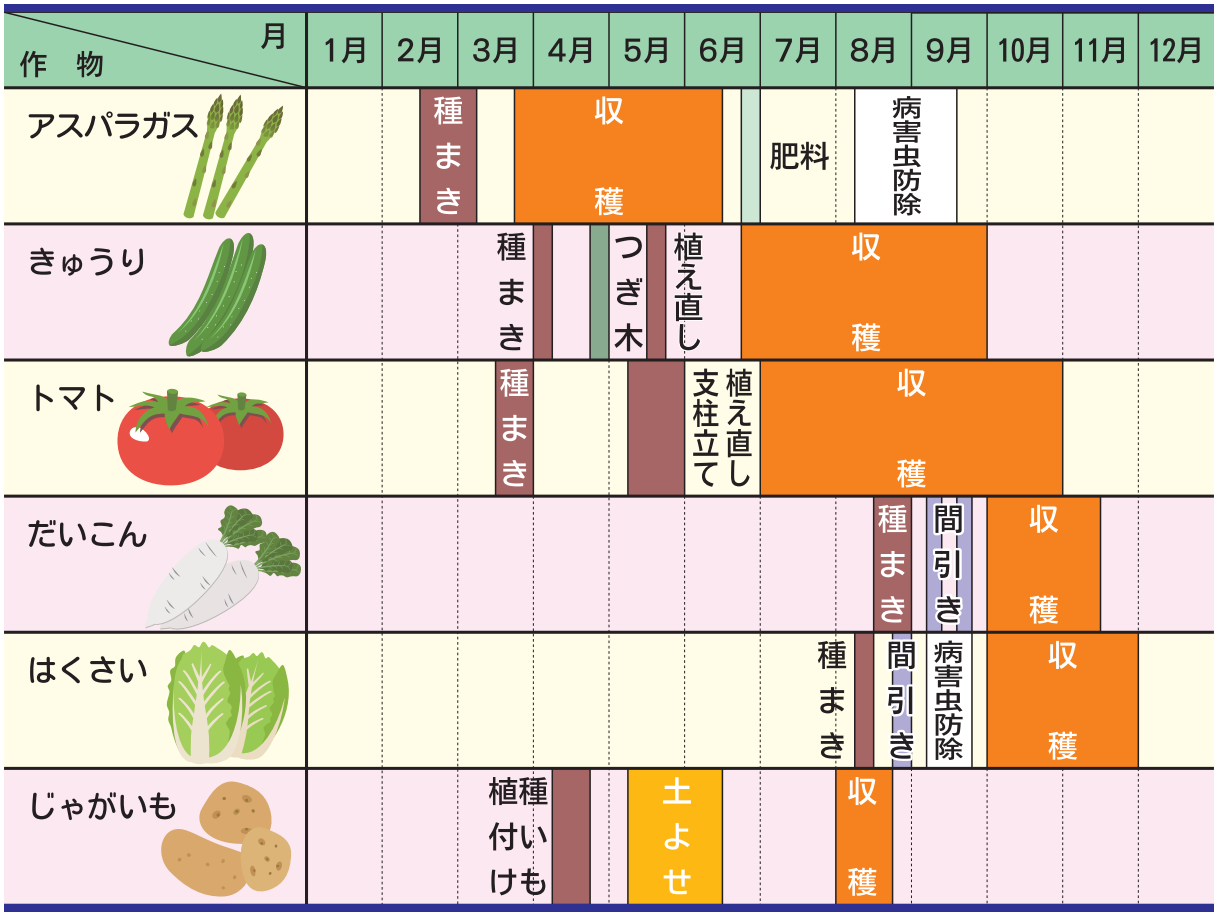
⑶ 畑の仕事

畑では、たくさんの作物を作っています。畑の作物も、稲と同じように、病気や虫の害から守るため、消毒をしたり、草取りをしたりするので、なかなかたいへんです。

湯川村で作られる野菜は、大根、はくさい、キャベツ、じゃがいもなど、おもに自家用にするものがあります。アスパラガス、きゅうり、トマトなど、ＪＡを経由し県外へ販売して、現金収入を得ているものもあります。

○畑のおもな作物づくり

おもな作物のさいばい期間



（農協資料より）

○わたしたちの村で作られているおもな畑の作物（さくもつ）

⑷ 牛・会津地鶏の飼育

わたしたちの村では、以前は多くの農家で牛や会津地鶏を飼育していましたが、現在は多頭飼育になり、畜産公害の発生もあって少数の農家でしか飼育されなくなりました。牛肉は、郡山の食肉市場や、食肉センターへトラックで出荷され、県内や、東京方面に送り出されています。卵は地元販売が主です。

牛の飼育

鶏の飼育

○飼育数と農家戸数

家畜	牛(頭)	豚(頭)	めん羊(頭)	やぎ(頭)	鶏・採卵用(羽)
飼育数	90	0	0	1	100
農家戸数	4	0	0	1	1

(平成30年現在)

※牛の飼育数90頭のうち肉用牛が大部分を占めています。